



For Democracy's Sake

特別編 2020大統領選

応援演説

バラク・オバマ前大統領 民主主義の存続をかけた闘い

11月の米大統領選に向けて開かれた民主党の全国大会。当大会3日目の8月19日にはオバマ前米大統領が登場した。大統領候補に指名され、トランプ大統領と闘うことになったジョー・バイデン氏は、オバマ政権下で2期連続副大統領を務めた人物。オバマ前大統領は彼を「兄弟」と呼び、副大統領時代の功績を称賛しながら彼への支持を訴えた。民主主義の再興を願うオバマ前大統領の応援演説に耳を傾けてみよう。



■バラク・オバマ

アメリカ合衆国第44代大統領（2009～2017年）。民主党に所属。初のアフリカ系アメリカ人の大統領。ハワイ州ホノルル生まれで、合衆国本土出身でない大統領というのも歴代初。コロンビア大学を卒業後、シカゴで就職。その後、ハーバード・ロー・スクールへ進学し、公民権弁護士となる。1997年から2004年までイリノイ州議会上院議員を務め、2005年から2008年までイリノイ州選出の連邦上院議員を務めた。2009年のノーベル平和賞受賞。1961年生まれ。

67 合衆国憲法誕生の地より

I'm in Philadelphia, where our Constitution was drafted and signed. It wasn't a perfect document. It allowed for the inhumanity of slavery and failed to guarantee women—and even men who didn't own property—the right to participate in the political process. But embedded in this document was a North Star that would guide future generations: a system of representative government—a democracy—through which we could better realize our highest ideals.

Now, I know that in times as polarized as these, most of you have already made up your mind. But maybe you're still not sure which candidate you'll vote for—or whether you'll vote at all. Maybe you're tired of the direction we're headed but you can't see a better path yet, or you just don't know enough about the person who wants to lead us there.

for something's sake:

《タイトル》～のために

(the) Constitution:

= the Constitution of the United States 合衆国憲法

draft:

～を起草する、立案する

sign:

～に署名する

document:

文書、公文書

inhumanity:

非人道的行為

fail to do:

(すべきことを)しない

guarantee A B:

A(人)にBを保障する

own property:

財産を所有する

the political process:

政治的プロセス、政治過程

be embedded in:

～に埋め込まれている、組み込まれている

representative government:

代議政治

polarized:

分極化された、分裂した

make up one's mind:

決心する、はっきりと決める

candidate:

候補者、立候補者

be tired of:

～に飽きている、うんざりしている

be headed (in):

(ある方向へ)向かっている、進んでいる

私はフィラデルフィアにいます。この地で合衆国憲法が起草され、署名されました。それは完璧な文書ではありませんでした。奴隷制という非人道的なことに対して目をつぶり、女性に——そして、財産を持たない男性にさえも——政治プロセスに参加する権利を保障していませんでした。それでも、この文書には組み込まれていたのです、未来の世代を導く北極星が。つまりそれによって崇高な理想をより実現しやすくなる、代議政治というシステム——すなわち、民主主義が。

さて、このような分断の時代にあっては、すでにほとんどの方が心を決めていることでしょう。一方、どちらの候補者に投票するか——いや、そもそも投票するかどうか、迷っている方もいるかもしれません。わが国が進んでいる方向にうんざりしているのに、まだよりよい道が見えていないという方もいるかもしれません。あるいは、そのよりよい道へ導こうとしている人物のことを十分に知らないだけなのかもしれません。